



2011年春号

地球

男女が共に生きる情報紙 VOL.88



市の鳥ゆるキャラ「カワセミくん」

職場、家庭、学校、地域 いつでもどこでも充実した生き方を!



- ワーク・ライフ・バランスってどういうこと?
「お互いの人権を認め合う職場、暮らしやすい地域づくり
～ワーク・ライフ・バランスの推進～」
講師：株式会社 東レ経営研究所
ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長 渥美 由喜 氏
- あなたを守りたい!! ～今、学校では～
「いじめ防止プログラム」「スクール・バディ」
インタビュー：NPO法人 湘南DVサポートセンター理事長 瀧田 信之 氏
- 助け合いはかっこいい
- 編集後記
- インフォメーション

ワーク・ライフ・バランスってどういうこと?

「お互いの人権を認め合う職場、暮らしやすい地域づくり ～ワーク・ライフ・バランスの推進～」

平成23年1月18日、藤沢市役所で管理職員向けの研修会が開催されました。今回は、この研修会に参加したA子さんとB夫さんに、“ワーク・ライフ・バランス”について話し合っていました。

A子:この講演、色々教えられることの多い内容でしたね。

B夫:そうでしたね。“ワーク・ライフ・バランス”という言葉は知識として知っていたけど、具体的に理解できていなかったんだなって思いました。

A子:“ワーク・ライフ・バランス=仕事と生活の調和”という意味があるけれど、講演の中では「質の高い生活が質の高い仕事につながる」、「メリハリのある仕事は生活の余裕につながる」と話されていました。“ワークとライフの相乗効果”がこの言葉の本質なんですね。(図1)

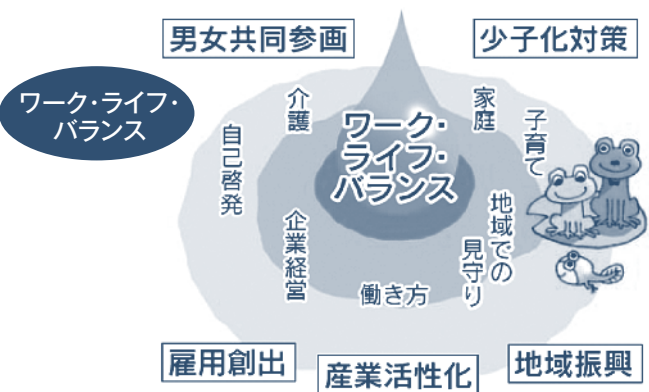
B夫:ワーク・ライフ・バランスの“ライフ”の部分には、「家族とのコミュニケーションを密にすること」や、「家事や子育ても夫婦で協力し合うこと」が含まれるけど、家庭だけではなく、地域の人たちとも積極的に関わることができれば、さらに良いよね。地域の人たちの顔が見える暮らしは安心感もあるし、気軽に声をかけ合うのも嬉しいことだし。充実感あるなあ～。

A子:そう、そういう関係づくりも仕事に追われていてはできないですね。毎日残業で帰宅して、食事をして寝るだけでは、質の高い生活とは言いにくいわ。効率良く仕事を終えて自分の時間を作らないと。ワーク・ライフ・バランスの実現のために努力をしている企業も増えてきているわ。

B夫:そこでワーク・ライフ・バランスの“ワーク”の部分の見直しをしてみると、質を落とさずに改善できる仕事もありそうだよ。でもいくら効率良く仕事をしようとしても、一人でしゃかりきになっていたら、職場で浮いてしまう…。

A子:そこで、職場の人たちを含めての意識改革が必要なんでしょうね。「ある女性が、職場が変わるたびに上司に業務改善の提案をして仕事の効率化をはかり、ガンと時間短縮ができた」という話がありましたよね。

～渥美 由喜氏 講演資料～



B夫:子育て中の女性で、定時で仕事を終えるための業務改善を提案したんですね。それはその女性だけでなく、他の人たちにも時間の余裕ができて良い結果になって。その職場の人たちの「支え合い」、「お互いさま」の気持ちが功を奏したわけです。制約がある中で働くことは仕事の効率アップにつながるんだってね。そういえば、今晚飲み会って日は「絶対仕事を終わらせるぞ」って頑張るもんね(笑)。

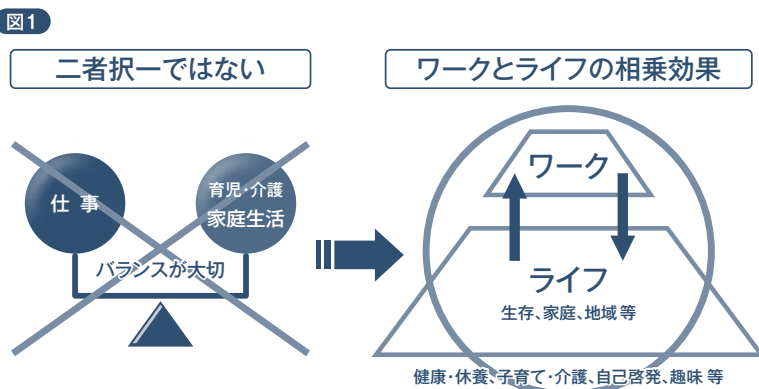
A子:そういう考え方もあるわね。私たちの職場もそんなふうになればいいわね。

B夫:ところで、渥美さんは育児休暇も取得している。僕にも子どもがいるけど、仕事がとても忙しい時期で育児休暇を言い出せなかったな。育児をする男性を“イクメン”って言うけど、“イクメン”って、最近よく話題になっているね。

A子:美男子でカッコいい男性を“イケメン”というのにひっかけて、育児をする男性を“イクメン”と言うのでしょうか。昨年の流行語大賞のベスト10にこの“イクメン”も選ばれていたわ。今や、イケメンよりイクメンのほうがモテるんですって。育児や家事に協力的な男性は、やはり魅力的よね。(図2)

B夫:そのとおり! 僕だって妻にモテてるよ。でも育児休暇を取るのには、渥美さんといえども大変だったよだね。上司、同僚、そして妻の母までが摩擦の対象となり(ああ、わかるなあ)、それを説得し乗り越えての育休は、内容の濃いものとなり、その体験は仕事に戻った時にとても役立つんだってね。色々な経験をするのは大事だね。(詳しくは渥美由喜・著「イクメンで行こう! ～育児も仕事も充実させる生き方～」を読んでみてください!)

A子:それから、突然お父さまの介護も入ってきて、大変だったと思うわ。



講師プロフィール

渥美 由喜(あつみ なおき)氏
株式会社 東レ経営研究所
ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長
東京大学法学部卒業。複数のシンクタンクを経て、2009年東レ経営研究所入社。
内閣府「ワークライフバランス官民連絡会議」
「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰(内閣総理大臣表彰)」委員
厚生労働省「イクメンプロジェクト」委員などの公職を歴任。



B夫:家族の介護をしながら仕事を続けるのも大変だからね。これから介護休暇を希望する人も増えていくだろうね。

A子:誰かが休むことになっても、無理なくフォローできる体制を作っていきたいです。職場での「支え合い」、「お互いさま」の気持ちが、「制度よりも風土」としてあればいいですね。

と、二人の会話は続いています。渥美さんの講演は、今後に向けて大変参考になったようです。

他にも多くの参加者から感想が寄せられました。

- 「イクメンをもっと増やし、家庭や地域が活性化されるようにしたい」
- 「理論だけでなく、実体験から得られた話は説得力があった」
- 「ワーク・ライフ・バランスを、職場で、家庭で、地域で実践していきたいと思った」
- 「人権を認め合う職場づくりを伝えていきたい」
- 「職場の活性化や充実した人生を目指す職員にとって為になる話だった」
- 「理解はできるが、なかなか実現できない状況もあると思う(人員不足、低賃金、過労働の実態)」

(遠藤 記)

イクメンで行こう!
～育児も仕事も充実させる生き方～

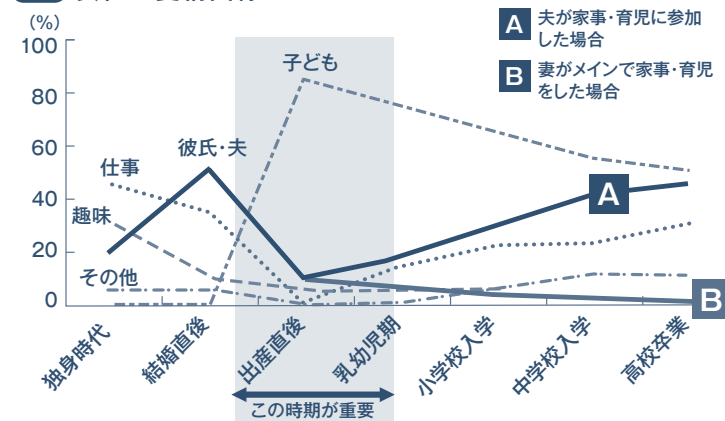
渥美 由喜・著 2010年
(日本経済新聞出版社)

「子育ての経験が仕事力を高める! 時間制約ができることで業務の効率が高まる。子どもや地域の人などと接することで幅広い柔軟な視点が身につく、対話能力が磨かれる。」

※市内では、長後市民センターの図書室に所蔵してあります。(平成23年2月現在)



図2 女性の愛情曲線



あなたを守りたい!! ～今、学校では～



いじめ防止プログラム

市内8校(中学校7校・小学校1校)で、子どもたち自身が考えて解決へと導く「いじめ防止プログラム」の取組みが実践されています。

このプログラムは、子どもたちに「自尊心をもって生きることが、暴力・いじめの防止につながる」ということを伝え、「暴力によらない解決方法やコミュニケーション方法」を、クラスごとに4回のワークショップ*を通じて学ぶものです。



そして学校全体にいじめを許さないという機運を作り上げることによって、いじめに対する傍観者をなくすという取組みです。

小学校の場合は、ワークショップの後、クラス単位で劇やダンス、合唱などのパフォーマンスによりいじめに対するアピールを行います。



※ワークショップ

学びや創造、問題解決やトレーニングの手法のこと。参加者が自発的に作業や発言を行える環境が整った場所において、司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営される形態が一般的。

スクール・バディ

「生徒同士がともに支え合うシステム」を作り、その企画・運営を担う組織です。

ワークショップを終えた後、生徒たちにスクール・バディへの参加を呼びかけます。参加を表明した生徒たちは、計8回のトレーニングを経てスクール・バディの一員となります。

バディになった生徒は、いじめを未然に防ぐための様々な企画を考えたり、相談にやってきた生徒の話の聞くなど、「いじめを絶対許さない」という校風を作り上げていくことが主な役割です。担当の先生やNPO法人 湘南DVサポートセンターのスタッフがアドバイザーとなり、バディの相談を受けながらこの活動を進めていきます。

この制度を最初に導入した村岡中学校では、全校の約10%の生徒がスクール・バディの活動に参加しています。バディの人数が多数派になることにより、学校全体に「いじめはいけない」という気風が生まれ、学校の雰囲気は変わりつつあります。

(川辺 記)

ワークショップの内容

1回目 「何が暴力やいじめなのか」の定義を確認後、被害者・加害者・傍観者の心理について話し合う。

2回目 いじめの原因に迫り、いじめる側の行動の背後にある心理をグループで話し合い、そのイメージを絵や言葉に置き換え発表する。

3回目 「いじめを止められるのは自分自身でしかないこと」、「自分はかけがえのない存在であること」を知り、行動を変えることで自信を深めていく。

4回目 ノーと言える自分、受身でも攻撃的でもない中立的な受け答えの方法を学び、その後作られる生徒の組織「スクール・バディ」のための意識形成をする。

インタビュー

平成22年11月20日に開催された「共に生きるフォーラムふじさわ2010」で講演された、NPO法人 湘南DVサポートセンター理事長の瀧田信之さんは、2008年から藤沢市の「いじめ防止プログラム推進員」も務めています。そこで、前号のインタビューに続き、小・中学校でのいじめ防止の取り組みについても伺ってみました。

Q 「いじめ防止プログラム」を実際に行ってみて、どのような変化がありましたか?

A 私が肌で感じたのは、プログラムのクラスで、ワークショップの1回目に「自分は(いじめを)見て見ぬふりをしてきた」と答えた生徒の多くが、4回目に「いじめをなくすには?」と質問すると「もう傍観者にはなりたくない」と回答したときでした。変化は確実にありました。傍観者が変わらない限り、当事者同士が変わることはすごく難しい。傍観者である彼らが声を出していくという変化が大切です。

Q この活動により、いじめは減っていきますか?

A いじめが減るといよりは「そのままの自分で学校に来てもいいんだよ」ということを分かってもらいたいのです。

親や友達からレッテルを貼られ、学校で無理をしている子どももいます。例えば「小学校3年生のとき怪我させたよな、お前はいじめっ子だよな」というように。本当は変わりたいのに周りが許してくれない。だから学校にいる間は演技をしていて、彼らはとても苦しい。そういう子が何人もいるとクラスが崩れていきます。

Q ワークショップで感動したことはありますか?

A 先日すごく良いことがありました。ある小学校の特別支援学級に自閉症の児童がいて、ワークショップに参加したときのことです。

1回目に「暴力の定義って何?」と質問したら、その子が手を挙げて「頭ごっこ」って答えたんです。僕は最初、そういう遊びなのかと思いました。しかしクラスメイトは「それって頭突きだよな、暴力だよな」と理解して、板書していきました。次に「加害者ってどんな人?」と質問したら、またその子が手を挙げて「あきらめない」って答えたんです。すると板書している子が「あきらめないよね、加害者、しつこいよな」って見事にフォローしてくれたのです。



2回目は、グループで絵を描きました。「加害者像を絵にし

よう」と。最初、その子のグループは全然描けなかったんです。すると、彼が入ってきて、大きな模造紙にどーっと絵を描き始めたんです。テーマには沿っていなかったかもしれないけれど、すごくきれいな絵でした。特別支援学級の先生は「8ヶ月間この子と付き合っていて、絵を描いたのは初めてです。今日はとても感動しました。」と言ってくれました。

ワークショップって生徒同士が互いに力を出し合い、相乗効果で発展的なプログラムが出来上がるんです。これが私たちの目指しているワークショップです。

Q それらを学んだ学生が、社会に出て仕事として活躍できる受け皿はありますか?

A 日本ではNPOとして自立するのは難しいと思います。しかし、ここで得た知識やスキルは、社会生活の中での人間関係に応用できます。大事なのは「どれだけ自尊感情をもって相手を大切にするか」ということです。その意味では、ここでやっていることは無駄にはなりません。家庭を持ったときや子育てをするときにも活用してもらいたいです。

(佐野 記)



助け合いはかっこいい



今年の冬は厳しい寒さが続き、北海道、東北、北陸などの豪雪地帯の他、年末年始にかけては鹿児島、長崎なども大雪に見舞われました。

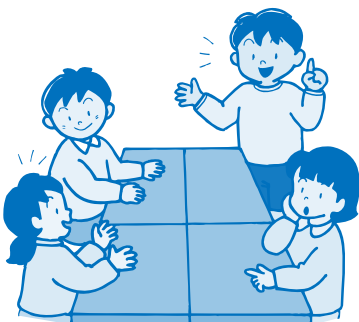
鳥取県琴浦町には鉛色の空から雪が降り続いた。京都市と山口県下関市を結ぶ山陰の幹線道路である国道9号は普段から大型トラックが多い。吹雪に襲われた大晦日はさらに帰省や観光の車で混んでいた。スリップした大型車が道をふさぎ、渋滞が始まって、やがて全く動かなくなった。約25キロで車1000台が立ち往生。「こらぁ大変だ」近くに住む看板工房を営む祇園さんは、見たこともない長い車列に驚き、さっそく“トイレ”の看板を出し仕事場のトイレを開放した。近所の女性達は役場に集まりおにぎりを作り配った。その他にも安否確認をする人、まんじゅうを配った人、コーヒーをふるまった人など、おせちを食べるのも忘れて車列に向き合い続けた一日だった。

(朝日新聞 1月9日朝刊より)

このニュースは新聞やテレビですでに多くの方がご存じでしょう。トイレを開放した男性は、テレビのインタビューに「あたりまえの事をしただけです」と淡々と答えていました。そして町では、「もっと早く気がついていれば、お前のところは米、お前は漬け物を用意しろ、ともっとうまく助け合えたかな」と話しているそうです。

また、後日談もありました。福岡市の小学校の先生が、この助け合いを、担任する4年生に紹介しました。子どもたちは「こまっている人を助ける人はすごくかっこいい」「大きくなったなら同じようにやりたいです」「今のごじせい、不きょうやこようの問題がある中、こんなニュースはいいな」「人との助け合いができる日本にしたいです」など自分の気持ちを表現したそうです。

私も見知らぬ人に助けられた忘れられない経験があります。雨上がりの朝、藤沢駅へ出ようとバスを待っていた時のことです。座って待っていようとベンチに腰をおろした瞬間、私のズボンのお尻はベンチにたまっていた水でびしょ濡れしてしまったのです。あわててハンカチで拭きながらも、目立つしどうしようと頭は真っ白



でした。その時です。隣にいた若い女性がハンドバッグからハンカチを取り出して一緒に拭き始めたのです。藤沢駅に着き、「もう目立たないから大丈夫ですよ」と言って去っていく後ろ姿を見送りながら“私もこんな時、とっさに自分のハンカチを出して、一緒に拭いてあげることができるだろうか”と考えてしまいました。

琴浦町の人達の助け合い、子どもたちの素直な気持ち、親切にしてもらった経験、まだまだ日本にはたくさんのやさしい心があるのだと感じました。そして、小さい頃に好きだった絵本「モチモチの木」の中で、臆病な豆太に言った、おじいさんの“にんげん、やさしささえあれば…”という言葉になつかしく思い出しました。

(多根 記)



モチモチの木

斎藤 隆介：作
滝平 二郎：絵
1971年(岩崎書店)

- 街で、赤ちゃんのベビーカーを押したり、抱っこして歩いている男性にエールを送りたくくなります。「目指せ、イクメン！」(遠藤)
- 「あくせく働く」の反対語は「丁寧に生きる」かもしれない。何事にもバランス感覚を忘れないようにしたい。(川辺)
- 春は別れと出会いの季節ですね。子どものころ、クラス替えもあってドキドキ・ソワソワしていたことを思い出します。(佐野)
- たくさんの人に、この「かがやけ地球」を手にとっていただきたいと思っています。(多根)



インフォメーション

共生社会推進課からのお知らせ

- 問合せ先：共生社会推進課 男女共同参画担当
TEL.50-3501
- 申込み先：〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1

「共に生きるフォーラムふじさわ2011」 実行委員の募集

共生社会推進課では、毎年秋(11月頃)に講演会「共に生きるフォーラムふじさわ」を開催しています。

「共に生きるフォーラムふじさわ」は、公募等の市民委員と行政の委員により開催し、今年で22回目を迎えます。

今年度も実行委員を募集いたします。ぜひご応募ください。

- 任 期：5月下旬～2012年3月31日
- 対象・人員：市内在住の方5名程度
- 申込み方法：
4月7日(木)までに、任意の用紙に住所・氏名(フリガナ)・生年月日(年齢)・性別・職業・電話番号、応募理由(400字程度)を書いて郵送または持参で。

かがやけ地球は、市民の編集員さんの
企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ：遠藤 倫子・川辺 裕子・佐野 美穂子・多根 純子

おかげさまで 45周年



ふれあいのひろば

フジサワ名店ビル

☎0120-111-391 ☎23-0111(代)

<http://www.fujisawa-meiten.com>

勤労市民課からのお知らせ

- 問合せ先：勤労市民課 TEL.50-8222
- 申込み先：藤沢しごと相談システム運営センター(労働会館内)
TEL.23-8222 (月～金曜日・祝日除く)
FAX.23-8277 (9:00～17:00)
- 申込み：随時受付(定員になり次第締切り)。
電話または来所で。
上記「藤沢しごと相談システム運営センター」へ。

就職支援個別カウンセリング

藤沢市労働会館

- 内 容：就職に向けた相談に個別アドバイスします。
その後無料でお仕事を紹介します。
- 日 時：毎週火曜日、木曜日 10:00～16:30
※5月3日、5日は除く
- 対 象：市内在住または在勤の就職・転職を希望する方(1人1時間以内)

※ この他にも就職のご相談に応じます。(火～金曜の9:00～17:00)
まずはお問い合わせのうえ、お気軽にご来館ください。

藤沢・茅ヶ崎・寒川 “湘南”がエリアのFM放送局



<http://www.radioshonan.co.jp>

STUDIO FAX No.0466-29-2121

古書・アウトレット本 買取と販売

☺ 買取 不要なもの、お売りください。※一部、買取れない品もあります。
(買取品目)書籍・CD・DVD・ゲームソフトなど
お売りいただく際は身分証明書のご提示をお願いいたします。

お買得 稀少 アウトレット本と古書の販売 (詳しくは、下記ホームページで)

発売後、読者の手に渡らず出版社に在庫されていた未読の本(アウトレット本)を
旧定価の20～80%OFFで販売します。他に珍品や稀少本など古書も扱っています。

藤沢駅(南口)前・有隣堂藤沢店5階
リブックス藤沢店 ReBOOKS 有隣堂
☎0466-26-1411(有隣堂藤沢店代表番号) ●ホームページ <http://www.yurindo.co.jp/>

All for the Guest
総てはお客様のために

Bridal Banquet Stay Restaurant

グランドホテル湘南

〒251-0054 藤沢市朝日町11番地
お問合せTel 0466-22-1311
<http://www.shonanhmg.co.jp>